

青年学級

十四学級が開設

自己の向上求めて

本年度の青年学級が、このほど市内の各地域でそれぞれ開設されました。

今年は、昨年と同じ十四の学級から開設申請が出され、自己の向上を求める若者たちが集いました。それぞれの年間重点学習計画には、青年相互の交流を求める仲間づくりや、お互いの意見の中から生まれ得する対話学習、現代社会における

青年のありかた——など盛りたくさん組み込まれています。

●…今年度の開設青年学級
(カッコ内は開設場所)
▽中央(公民館) ▽秋葉(公民館) ▽中新田(同公民館)
▽満願寺(同公民館) ▽大修(会) ▽創作(会) ▽青年の主張(会)
▽北上新田(同氏子会館) ▽川口(同公民館) ▽若者の広場(後期リード研修)
▽公会堂(同公民館) ▽結(同公民館) ▽合同閉講式
▽市立瀬木(同公民館) ▽レンクリーニング大会

○…前期リーダー研修 ○…

学級対抗ソフトボール大会

○…緑陰の集い ○…松坂市内流しへの参加 ○…県外研

り決まりました。

なお、市内の青年学級生が、

一同に会して行なう年間合同

行事の種目計画も、次のとお

り決まりました。

△覚路津(同公民館) △山彦(金津農協) △金津(同公民館) △草木(同公民館) △山

合南(梅木木公民館)

△山

梅雨でござりますね。
梅雨でござりますね。
梅雨でござりますね。



調和のとれた都市環境に整備

快適な都市づくりをめざし市民が健康で安全な生活が営まれるようにして、市民参加の手法で総合開発審議会が設置され、現在審議中のことはご承知のとおりですが、昨年の十二月議会で開発の方向を示

私どもの市の場合、一部丘陵地を除き全面積の七千八百八十メートルのうち約五五%に

始めた。

られていて。

その中で都市環境の整備と

いう大前提で、市街地の住居

地域に混在して

いる中小工場

をまとまった一定の団地をつ

くって移転をしてもらおうと

いう構想でその適地の選定を

始めた。

して考えるまつたく論で「無理」という答がストレートに出てくる。それでは適地を山に求めることが可能なないか——という、構想の範囲を判断した二十五ヶタールで決まり立派な場所はない。しかし市全体の土地利用計画が、こうした方法を講じないかぎり、限ら

しかも立地条件にふさわしく

して考へるとしてもなる。

もちろん、地元の関係者を

いたずらに立づけ

はじめ農業サイドに立づけ

県の関係機関からはおそらく

異議の出ることは容易に予測

されるところ。しかし市全体

の土地利用計画が、こうした

方法を講じないかぎり、限ら

ない点がいくつかあげられて

くる。

そこでいきおい農地がその

対象として考えられてくるの

である。このことは、いっぽ

可能だとした場合、一体どう

すればよいのか。他に良策が

あるのかどうか。「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず

る。農振地域を定め、農政を進め

ることで、農用地を工場団地と

している施策からみると、きわ

めに行政区域内で開発が不

可能だとした場合、一体どう

するか。他に良策が

あるのかどうか。

「都市環境

整備」という大きな目標を

達成しようとすると、こう

なり進めようとする、こう

した大きな矛盾にぶつかる。

工場田地に限らず誰から

も歓迎されるプログラムを

コミュニティ計画を進められ

ないものかといき思案を続け

ている。

これがいわゆる農地といふこ

とになっている。しかもその

農地を保全しようとする

前にしてとまどいさえ感ず